令和5年（2023年）8月15日（火曜日）第2377号　（毎月1日・15日発行）

日本女性新聞

発行所　東京都国分寺市本町4-13-12-4005　（〒185-0012）
日本女性新聞社
振替口座　00150-2-11547番
電話　042－359－4310
FAX　042－359－4320
© 日本女性新聞社　2023

創美流華道 第68回 涼風七夕いけばな展

創美流華道会館

猛暑のなか好作そろう

久々に制限なしの花展開催

創美流華道第68回涼風七夕いけばな展が7月16日―17日、東久留米市の創美流華道会館で開催された。主宰＝創美流華道家元十五世・渡邊華靖氏。主催＝創美流華道会。後援＝東久留米市、東京新聞立川支局、花卉園芸新聞社。協賛＝創美流華道後援会、茶道脩静庵。

連日、35度を超す猛暑日が続いている。日本だけの問題ではないが、国連の事務総長が講演で「〝地球温暖化〟の時代は終わり〝地球沸騰化〟の時代が到来した」と警告するほどの事態になっているという。

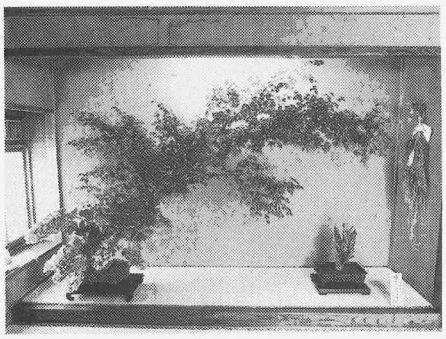
新型コロナウイルス感染症がまん延して華道界でのイベントが制限されてしまった2020～22年。創美流では創流270年の節目などもあったためコロナ禍でも流展や七夕展といった催事を展開し、コロナ禍なので無観客や出品者だけが参加する形ではあったが地道に連続して開催してきた。また、花展終了後に動画をアップして花展に来場することがかなわなかった人に向けてもイベントを紹介する工夫を続けてきた。

ようやく制限のない花展が迎えられたことで会員一同の喜びは計り知れない。来場したお客さまにお茶をふるまう学生（吉田灝文、東山芳寿、山口芳萩、綿本芳苑、高橋芳琳、幡野美涼）による添釜もあり、久しぶりのこういった光景にほほ笑ましさを感じた。2日間の会期で行われた涼風七夕いけばな展で厳しい暑さのなか足を運んだ来場者は、出品された諸作に涼を求めて楽しんでいるようだった。

床の間に庭で育てていた楓・とうもろこしを水盤にいけた家元・渡邊華靖は、20年育てた楓を庭から切り出して床の間の上部を覆うように展開した作品。花材の大きさから歴史も感じるが瑞々しい青々とした花材は暑さの厳しいなかにあって清涼感が味わえて見事だった。

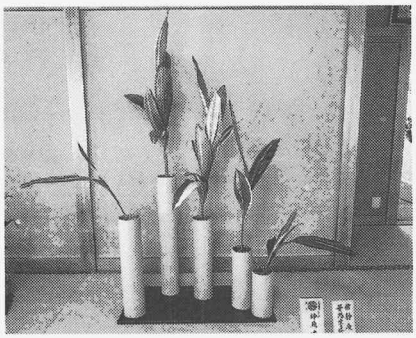
そのほかで印象に残った作品を次に紹介した。

副家元・渡邊華璋＝ヒペリカム・擬宝珠・しゃが・ミニばら、家元嗣・渡邊華闡＝やつで・ダリア・木・枝、立花翠松＝ストック・野ばらの実・ゴットセフィアナ、岡田鳳梢＝ダリア・カークリコ、市川碧水＝縞はらん五管寄せいけ（脩静庵華鴻宗匠記念賞）、山内灝舟＝ほおずき（鴻雲齋宗興宗匠記念賞）、渡邊華芳＝丹頂アリアム・晒みつまた・ゆり、杉本彩鳳＝ひまわり・らん・ピンクッション、渡邊闡祥＝がま・ゴールドスティック、堀川靖霞＝野ばらの実・やつで、田中翠雲＝がま・ゆり（会長奨励賞）、古田遥雲＝サンダーソニア・クルクマ・木賊・たにわたり、中山靖瑩＝がま・楓・エレムレス・ゆり・りんどう、飯尾灝眞＝南天・野ばらの実・サンダーソニア・ゆり・りんどう、大井靖灝＝ダリア・サンダーソニア・たにわたり・りんどう・ゴットセフィアナ、渡邊文誇＝クルクマ・サンダーソニア・エレムレス・ゴットセフィアナ（花卉園芸新聞社賞）、齋藤静藍＝楓・ヒペリカム・ラナンキュラス・トルコ桔梗（文中敬称略）。



家元・渡邊華靖

家元嗣・渡邊華闡



市川碧水（脩静庵華鴻宗匠記念賞）

渡邊文誇（花卉園芸新聞社賞）

山内灝舟（鴻雲齋宗興宗匠記念賞）

副家元・渡邊華璋